

会議録要旨

(1) 会議の名称	令和7年度 第2回越前市地域包括支援センター運営協議会
(2) 開催日時	令和8年3月16日(月) 午後1時30分～午後3時
(3) 開催場所	生涯学習センター eホール
(4) 出席委員氏名	野尻 健一郎委員、片山 雅彦委員、竹野 恭平委員、宮下 ひとみ委員、 佐々木 みゆき委員、万所 繁雄委員、青山 征雄委員、谷口 和正委員、 湊崎 幸子委員、市川 宏枝委員
(5) 欠席委員氏名	なし
(6) 出席所管課職員 職氏名	部長 笹田 和子、課長 神門 弘明、副課長 岩田 ゆき、副課長 渋谷 絹代、主幹 稲垣 由香理、主事 山口 、主事 駒 正晴
(7) 会議議題	1. 越前市地域包括支援センター運営状況について 2. 越前市地域包括支援センター事業実績(12月末)について 3. 地域包括支援センター事業実施を通じた機能強化について 4. 令和7年度越前市地域包括支援センター運営状況に対する評価について 5. 地域包括支援センターにおける柔軟な職員配置について
(8) 傍聴者の数	0名
(9) 会議資料の名称	2. 越前市地域包括支援センター事業実績(12月末)について 資料1：認知症施策の圏域毎「チームオレンジ」活動計画 資料2：地域ケア会議から地域課題、次年度への取組み 資料3：今年の主な取り組みピックアップ
(10) 会議の内容の要旨	2. 越前市地域包括支援センター事業実績(12月末)について ・権利擁護の相談のうち85%が困難事例対応だった。キーパーソン不在、本人や家族の精神障害や経済的困窮、問題行動、認知症などの問題が複合的に絡む傾向が高く、繋がった頃には福祉的な壁がかなり重篤化していることが増えてきている。本人や家族との関係の構築、関係機関の調整を足しげくやるしかない現状。 ・同居しているが介護力がないという問題が絡むケースがある。虐待対応したケースに経済的虐待が多かった。(権利擁護) ・地域住民の生き方、死生観などを考える機会が必要。本人は人生の最期を家族に迷惑かけたくないので施設と話すも真意は在宅を希望している気持ちが隠れていると感じる。

	<p>終活と同様、本人だけでなく、親の介護を担う世代や子育て世代にも在宅医療や在宅介護の普及啓発の説明も必要と感じる。(在宅医療・介護連携推進事業)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住民主体サービスの生活支援の事業の周知とマッチングの手助けをしていきたい。包括、協議体の地域の課題が一致しているので協力して何かの形で進めていきたい。(生活支援推進事業) ・認知症の方を介護する家族介護者にフォーカスをあてて実施。 ・元気な高齢者に「認知症になったら周囲の人にどう接して欲しい」などGWをして、生の声を知れた。生の声から幅広い年代への認知症サポーター養成講座の実施やいろんな集まりサロンなどを通じて、新しい認知症観を広げていきたい。(認知症総合支援事業) ・地域と関わり、話し合える関係性や相談がすぐにできるというところを分かりやすく伝えていきたい。(地域ケア会議推進事業) <p>・Q&A 生活支援推進事業 委員から、第2層協議会の年間活動について、確立しているところと今から始めるところと地区によって温度差を感じるが。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Q&A 全体的に、実際に介護をした人しかわからない問題や心の葛藤などがもう少し広まると、地区で考えないといけないということが伝わっていくのではないかと思うが。 ・Q&A 権利擁護やケアマネジメントの評価について、市の目標は？国が制度としてやらなければならないことか、市独自で行っているものはあるか。 ・Q&A センターの柔軟な配置について 人材不足はどこ介護の事業所は同じだが、複数センター間で必要な職種を合算して配置できることとは。上記のように、地域包括支援センターの事業を通して、地域の実情や職員の思いと委員からのご意見をいただいた。
(11) その他	—